

じょせい　じゆう　じゆくねんりこんげんしょう
女性の自由による熟年離婚現象

エルニマリヤニ

0242005



マラナタキリスト教大学文学部

日本文学科

バンドン

2007

じょろん 序論

日本では、熟年離婚のケースが増加し、現象化している。現代の女性には、主人が老年の生活を満喫する障害物の一つであると思っているものが多い。主人は、定年退職した後、家庭のあらゆる側面を握る場合が多い。また、定年退職してから、妻に依存し、日々を家で過ごす傾向がある。それにより妻は自由をしばられると感じるのである。

一つのデータとして、演劇「熟年離婚」はそのような現象を一組の夫婦を通して描いている。序論文では、熟年離婚がいかなる理由によって起こるか分析してみる。

結婚は、女性が家に多くいる結果をもたらす。したがって、家事は女性がその実権を握っているのである。しかし、あらゆる問題において女性は主人の言うことを聞かなければならないのである。多くの家庭では、妻が家計、子供の教育、キャリア、生活様式を取り決める責任者として役割を果たしている。

昔の日本の女性は、家にいて、主人、子供そして主人の親の面倒を見る。また、子供のときから自分の親に、結婚してからは、主人に従順でなければならないと言われ。一生、自分の自由な時間を持たないのである。

主人が家にいるとき、妻はさまざまな主人の面倒を見なければならないが、いないときは、自分の好きなことをやり、友達とおしゃべりまた電話で話す時間を自由に使うことができる。

主人が定年退職して、家にずっといると、これはもう妻には地獄である。自分の時間を持たなくなるし、自由に行動することができなくなる。したがって、そのような主人は、妻にとって障害物であり、荷物で

ある。それにより、妻はストレスになる場合がある。主人の^{ていねんたいしよく}定年退職は妻にとって^{きら}嫌いなものである。妻の起こした^{しんたい}ストレスは身体にもさまざまな^{びょうしょう}病症を生じさせる。

「熟年離婚」では妻は主人がまだ^{げんえきちゅうむし}現役中無視されたと感じ、多くの場合、時間を外で^{つい}費やし、好きなことをする。主人は、仕事の^{いそが}忙しさに、家庭のために時間を^さ割き、子供たちの^{めんどう}面倒を見ることができない、ということを描いている。しかし、^{たいしよく}退職してから、主人は妻を^{てつだ}手伝いとして取り扱うようになり、そのため妻は^{ふまん}不満になり、ストレスを起こすのである。ストレスがたまった^{けっか}結果、妻は離婚しようとするのである。新しい^{たいしよくきんぶんばいわり}退職金分配割が^{はっぶ}発布されたことも^{ぞうか}熟年離婚の増加を^{じょちょう}助長するのである。

けつろん 結論

じゆくねんりこんげんしょう ぶんせき けつか けつろん ひ だ
熟年離婚現象を分析してみた結果、次の結論を引き出すことができる。

1. 熟年離婚は妻が、主人が退職したために、時間、行動の自由しば
られると感じるためである。それがつまにストレスをもたらすので
ある。
2. 退職金分配改正法が發布されたことが熟年離婚の増加を助長する。